

沖縄観光の 満足度

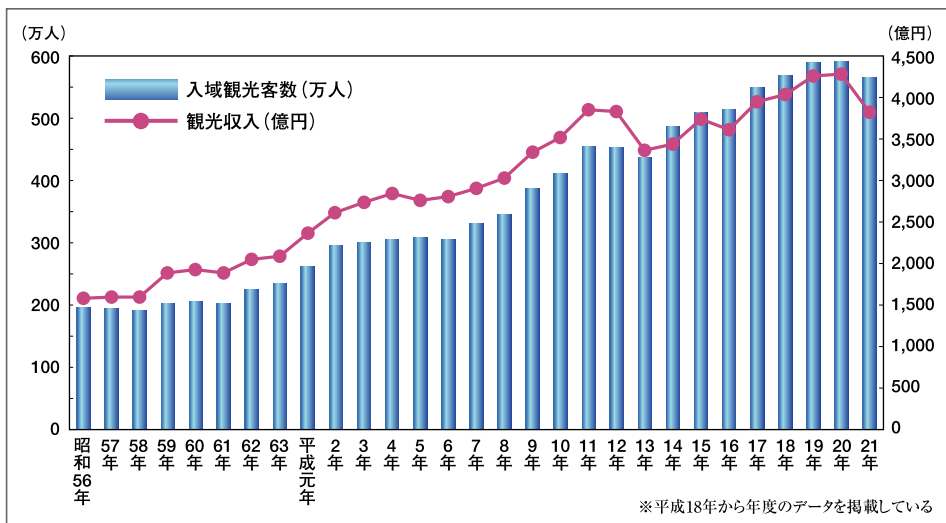
平成21年度
観光統計実態調査
(概要版)



平成22年3月
沖縄県 観光商工部

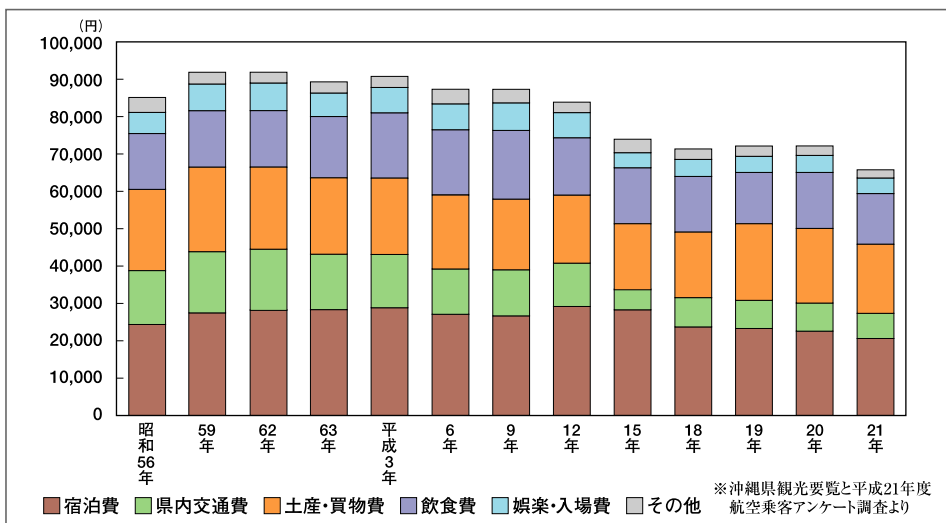
沖縄県における観光の重要性

入域観光客数と観光収入の推移



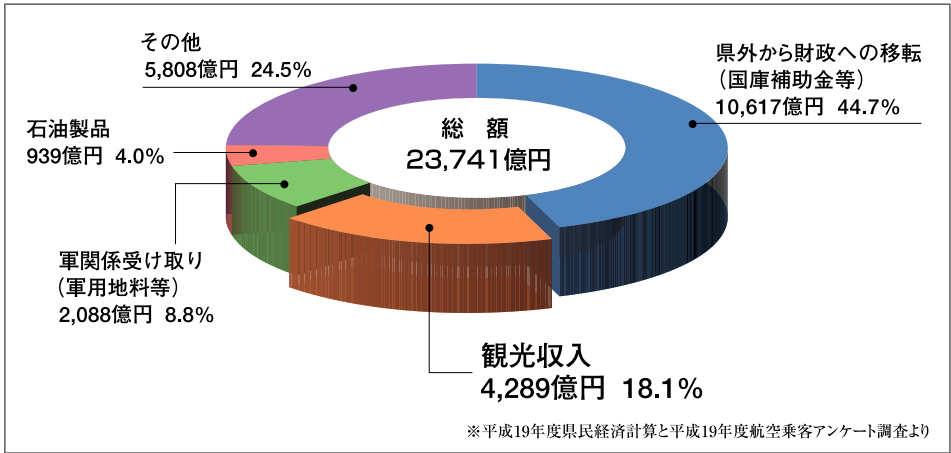
平成21年度の入域観光客数は5,690,000人となり、前年を下回った。
観光収入も3,778億円となり対前年度比12.1%の減少となった。

観光客一人あたりの県内消費額



平成21年度の県内消費額は、対前年度比8.4%減の66,403円となった。景気低迷や旅行商品の低価格化の影響を受けて、いずれの費目とも前年を下回った。

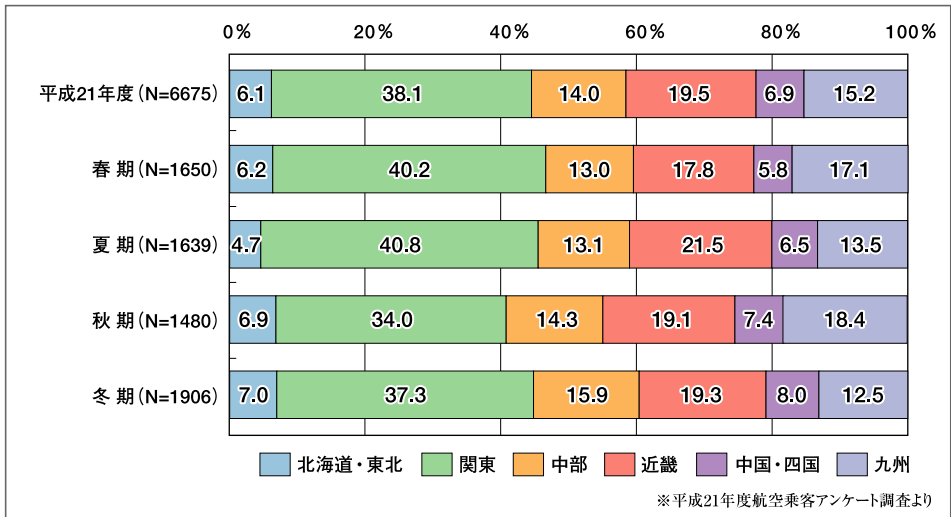
■ 県外受取の内訳 (平成19年度)



県経済が県外から得た収入のうち、観光収入は18.1%となった。産業としては最も高いシェアであり、県経済の自立にとって重要な位置を占めていることがわかる。

■ 観光客の実像 (外国人客を除く)

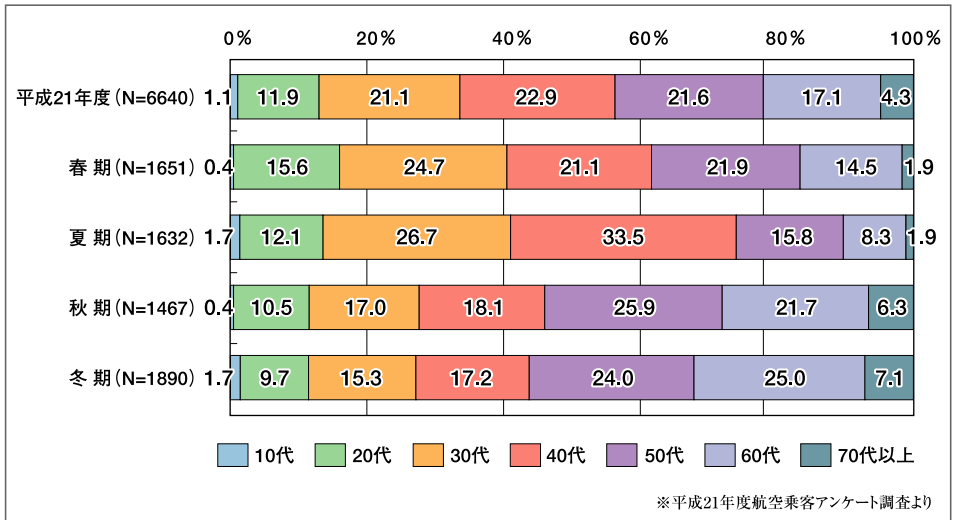
■ 居住地



(注) 構成比は無回答割戻し後 (以下同じ)

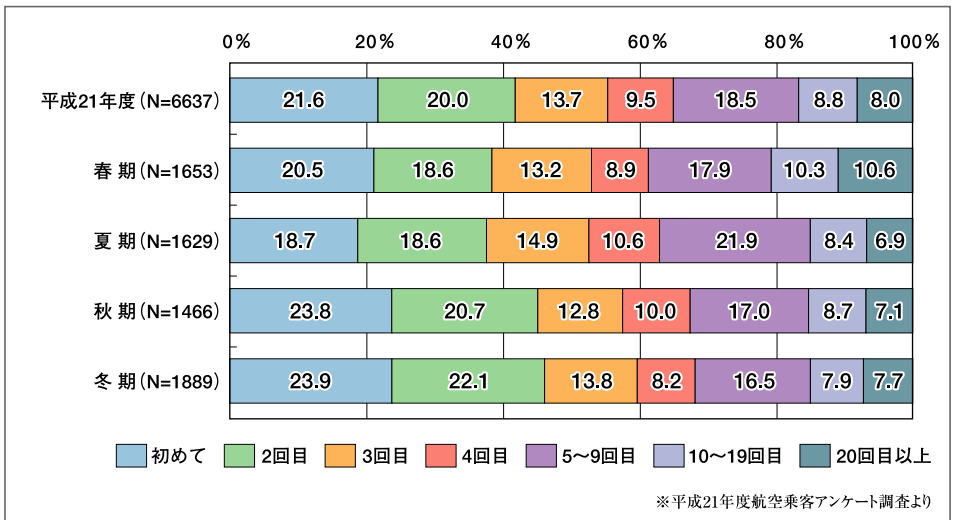
「関東」が最も多く全体の約4割を占めている。「九州」は「春期」と「秋期」でやや多い。

年代



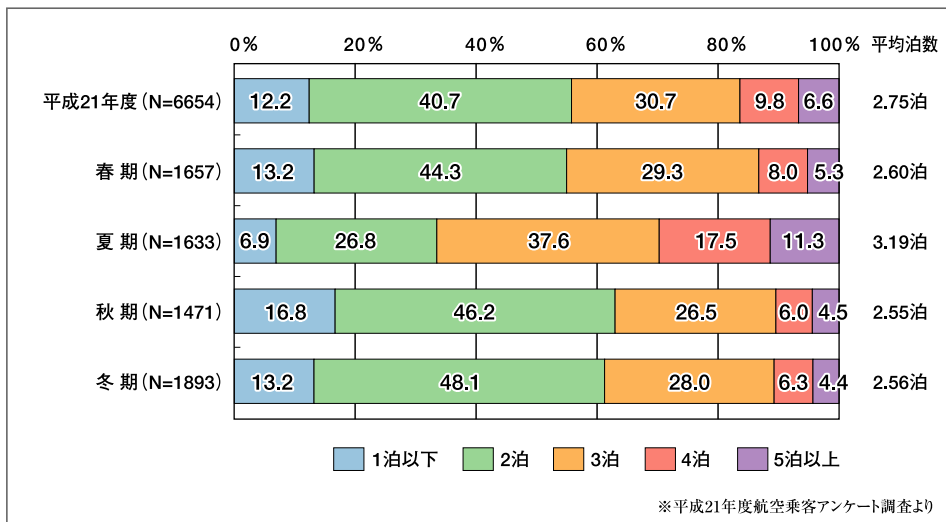
「30代」から「50代」にかけては各年代がそれぞれ約2割を占めている。“夏期”は「30代」と「40代」が特に多く、“秋期”“冬期”では「50代」や「60代」が多くなっている。

来訪回数



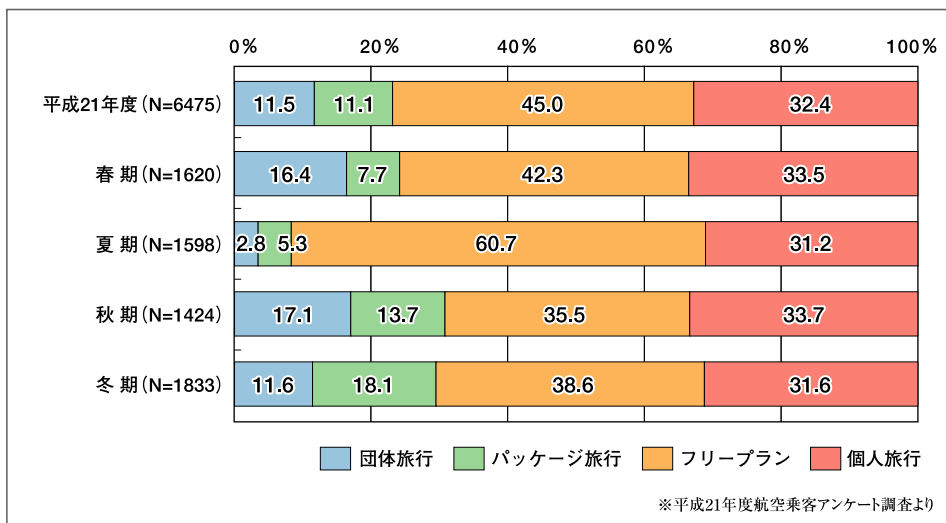
「初めて」が21.6%、「2回目」が20.0%となった。リピーター比率は78.4%である。調査時期別に見ると、“秋期”“冬期”で「初めて」と「2回」が多い。

泊数



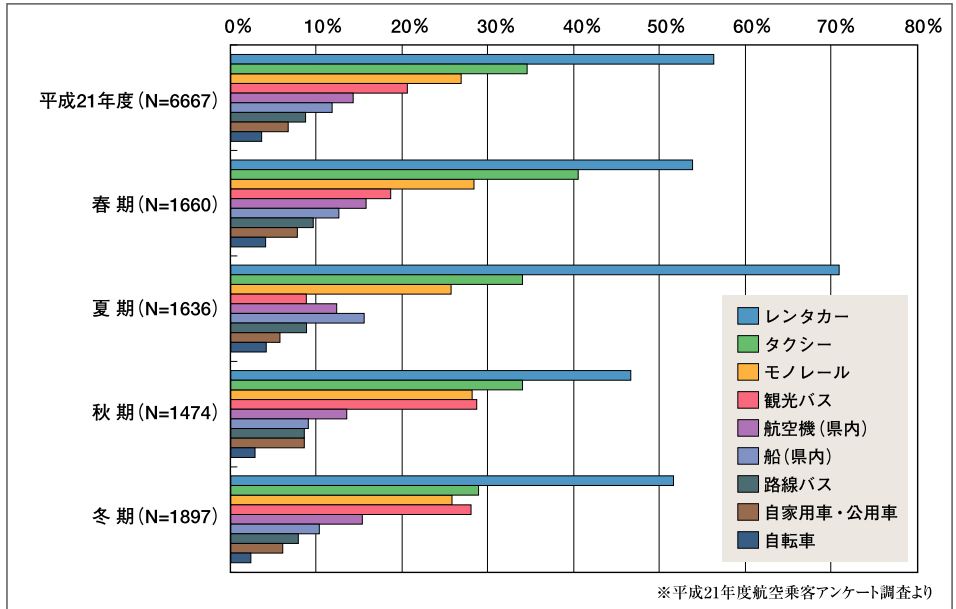
最も多いのは「2泊」で全体の4割を占めている。調査時期別に見ると、平均泊数は「夏期」が3.19泊と最も長くなっている。

旅行形態



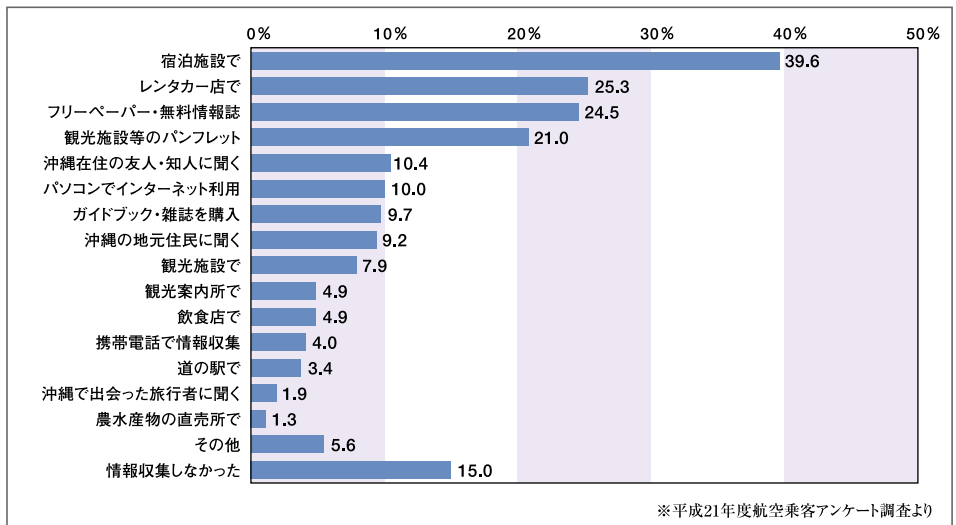
「フリープラン」が最も多く、4割超を占めている。また「夏期」は特に「フリープラン」が多い。「個人旅行」は年間を通じて3割以上を占めている。

■ 利用した交通機関（複数回答）



「レンタカー」の利用率は6割弱にまで達している。「夏期」は特に高く、7割を超えている。「観光バス」は「秋期」「冬期」で高く、「夏期」は低い傾向が見られる。

■ 沖縄に着いてから観光情報を得た場所（複数回答）



「宿泊施設」が最も多く、次いで「レンタカー店」と続いていることから、これらの拠点を有効に活用することが重要といえる。